

# 令和7年度事業報告書

令和7年1月1日から

令和7年12月31日まで

特定非営利活動法人 災害支援団 Gorilla

## 1 事業実施の成果

1

### 地域コミュニティ構築支援事業の成果

令和7年能登半島地震および令和6年奥能登豪雨の発災から2年目を迎えるにあたり、当団体は七尾市矢田新町ポートサイド七尾を中心に、仮設住宅居住者および在宅避難者を対象とした伴走型支援を継続的に実施した。年間を通じて開催した「無料サロン（Gorilla カフェ）」や物資支援、竹灯籠作り等の体験型イベントは、住民の孤立防止、ストレス緩和、地域の再結束に大きく寄与した。住民が主体となり運営に関わる機会を設けたことで、「住民自身が声を出し合える場」が復活し、課題共有・相互扶助の土台が形成されたことは大きな成果である。特に、週あたり約60名規模の定期来所者、およびイベント時には100～250名規模の参加者が訪れ、コミュニティ再生の核となる居場所として機能した。また、来季には別地域での拡大実施が検討されるなど、持続的な地域力向上につながる成果が得られた。

### 1-2 七尾市との「災害時における相互協力に関する協定」締結の成果

令和7年2月12日、七尾市と当団体は「災害時における相互協力に関する協定」を締結した。これにより、当団体の実動力・炊き出し技術・物資調達力が行政の防災体制に組み込まれ、以下のような効果を生んだ。

発災時の即応体制の強化：市との連携により、迅速な立ち上がりと正確な被災状況把握が可能になった。

住民の安心感の向上：行政とNPO双方が公式に協調する体制が整い、市民にとって信頼できる支援先が明確化された。

平時の防災活動の深化：防災講演会、炊き出し研修、竹灯籠等の地域参加型企画において、市との協働が広がり、防災啓発の裾野を拡大した。

この協定締結は、当団体にとって 広域災害支援の基盤強化と信用力向上 の重要な一歩となった。

## 2 体験型炊き出し・竹灯籠作り等の住民参加事業の成果

岡山市で行われた（3月）の体験型炊き出しおよび竹灯籠作り事業（累計220名参加）では、子どもから高齢者まで幅広い住民が参加し、「食」と「ものづくり」を通じた心身の安定とコミュニティの再統合に寄与した。また、これらの体験活動は単なるイベントに留まらず、

- ・災害時の食の重要性
- ・火器使用の安全管理
- ・地域文化の承継（竹灯籠）

など、防災教育としての意義も大きい成果を生んだ。

## 3 防災講演会（玉野市）の成果

5月25日に玉野市で実施した「災害時の食に関する講演会」では、60名の参加を得た。講演では、被災地での実践知、食の衛生管理、後方支援のあり方などを発信し、行政・福祉団体・地域住民の防災意識向上に貢献した。費用負担ゼロでの実施であったが、参加者からの評価は高く、今後の講師派遣依頼にもつながる成果を残した。

## 4 災害救援事業（令和7年8月 熊本豪雨）の成果

9月の熊本県美里町・八代市（川田地区・龍峯地区）に対し、当団体は土嚢袋の物資支援を実施。被災世帯約200

世帯に対し必要物資を確実に届けることができ、被害拡大防止に貢献した。

地域外支援にも迅速に動ける体制が整ってきたことは、当団体の広域災害対応力の向上として重要な成果である。

## 5 「ぼうさいこくたい 2025 in 新潟」出展の成果

9月5日～8日の防災国体（新潟市）において、当団体は展示および広報活動を実施した。全国の行政・防災団体・NPOとの交流を通じ、新たな協働の可能性が生まれ、当団体の活動発信・認知向上・ネットワーク拡大に寄与した。

来場者数は膨大であり、特に炊き出しノウハウや地域支援モデルへの関心が高く、次年度以降の連携構築の土台となった。

## 6 オンライン研修・職員育成の成果

8月26日の「被災者生活支援編オンライン研修会」への参加により、職員の専門性向上を図った。最新の支援制度、避難所運営、人道的支援の基準等について学び、今後の事業に活かせる知見を得た。

## 7 年間を通じたコミュニティサロンの成果

定期的に開催したポートサイド七尾でのサロン事業は、年間を通して住民に寄り添う基盤となった。

来所者の困りごとを把握し、物資、相談支援、居場所提供を行うことで、仮設住宅や被災地域での孤立防止に明確な成果を上げた。

## ＜総括＞

令和7年度は、能登地域の被災住民支援を中心に、食による心のケア、居場所づくり、物資提供、行政連携防災教育など、多角的な活動を展開した一年であった。特に七尾市との公式協定締結により、地域防災の基礎が一段階強化、また、内閣府 政策統括官（防災担当）が所管する登録被災者援護協力団体制度において令和7年11月28日付で、登録被災者援護協力団体として正式に登録され、当団体の支援体制も次のステージへ進んだ。

今後も行政・地域住民・全国の支援者と連携し、「地域の底力」を育む活動を継続していく。

### 2 事業の実施に関する事項

#### (1) 特定非営利活動に係る事業

下表のとおり実施

#### 3 その他の事業

なし



# 活 動 計 算 書

[税込] (単位: 円)

特定非営利活動法人災害支援団Gorilla

自 令和7年 1月 1日 至 令和7年12月31日

【経常収益】			
【受取会費】			
正会員受取会費		162,000	
【受取寄付金】			
受取寄付金		1,255,400	
【補助金収入】			
補助金収入		14,000	
【その他収益】			
受取 利息		15,473	
経常収益 計			1,446,873
【経常費用】			
【事業費】			
(その他経費)			
売上 原価	67,786		
旅費交通費(事業)	347,370		
消耗品 費(事業)	201,896		
燃 料 費(事業)	64,234		
その他経費計	681,286		
事業費 計			681,286
【管理費】			
(人件費)			
福利厚生費	37,307		
人件費計	37,307		
(その他経費)			
通信運搬費	14,967		
消耗品 費	78,263		
減価償却費	504,293		
支払手数料	4,620		
燃料費	12,158		
保 險 料	55,440		
雑 費	66,276		
その他経費計	736,017		
管理費 計			773,324
経常費用 計			1,454,610
当期経常増減額			△ 7,737
税引前当期正味財産増減額			△ 7,737
当期正味財産増減額			△ 7,737
前期繰越正味財産額			11,592,934
次期繰越正味財産額			11,585,197

## 貸借対照表

特定非営利活動法人災害支援団Gorilla  
全事業所

[税込] (単位: 円)  
令和7年12月31日 現在

資 産 の 部		負 債 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
【流動資産】		【流動負債】	
(現金・預金)		未払金	31,321
普通預金	11,727,518	前受金	111,000
現金・預金計	11,727,518	流動負債合計	142,321
流動資産合計	11,727,518	<b>負債合計</b>	<b>142,321</b>
		<b>正味財産の部</b>	
		前期繰越正味財産額	11,592,934
		当期正味財産増減額	△ 7,737
		<b>正味財産合計</b>	<b>11,585,197</b>
<b>資産合計</b>	<b>11,727,518</b>	<b>負債及び正味財産合計</b>	<b>11,727,518</b>

# 財 産 目 録

特定非営利活動法人災害支援団Gorilla  
全事業所

[税込] (単位: 円)  
令和7年12月31日 現在

## 《資産の部》

### 【流動資産】

(現金・預金)

普通 預金

11,727,518

現金・預金 計

11,727,518

流動資産合計

11,727,518

資産合計

11,727,518

## 《負債の部》

### 【流動負債】

未 払 金

31,321

前 受 金

111,000

流動負債合計

142,321

負債合計

142,321

正味財産

11,585,197

## 前事業年度の年間役員名簿

(令和7年1月1日から 令和7年12月31日)

〔特定非営利活動法人災害支援団Gorilla〕

No.	役職名	氏 名	住 所 又 は 居 所	就任期間	報酬を受けた期間
1	理事長	カヤノ タクミ 茅野匠		令和7年1月1日～ 令和7年12月31日	報酬無し
2	副理事長	ナカガミ 中上しのぶ		令和7年1月1日～ 令和7年12月31日	報酬無し
3	理 事	ナカ ヤスナリ 仲恭成		令和7年1月1日～ 令和7年12月31日	報酬無し
4	理 事	ニシノ トモヒロ 西野智洋		令和7年1月1日～ 令和7年12月31日	報酬無し
5	理 事	オカベ 満 岡部 満		令和7年1月1日～ 令和7年12月31日	報酬無し
6	理 事	イガラシ 奈央 五十嵐奈央		令和7年2月15日～ 令和7年12月31日	報酬無し
7	理 事	ミツダ 佳織 松下 佳織		令和7年2月15日～ 令和7年12月31日	報酬無し
8	監 事	カケヒ かおり 寛 かおり		令和7年1月1日～ 令和7年12月31日	報酬無し